

平成26年8月 全員協議会

平成26年8月18日（月曜日）

平出 孝朗 議長



説明のための出席者：政府機関

※ [全員協議会について](#)

<議長 冒頭あいさつ>

平出孝朗議長

東京電力福島第一原子力発電所の事故から3年5カ月が経過したが、依然として約13万人が県内外に避難している。4号機使用済み燃料プールからの燃料取り出し作業が進められている一方で、地下水バイパスにおいては十分な効果が見通せない状況であるほか、凍土方式による止水工事に技術的な懸念が生じるなど、事故収束、廃炉作業の道筋はいまだ見えていない。また、福島復興・再生のため除染の加速化を図るとともに、中間貯蔵施設や原子力損害賠償については、地元住民の意向や心情を酌んだ上で、誠実かつ十分な対応が求められている。さらに、震災関連死への対応を初めとした心のケアや、生活再建のための取り組みの充実も喫緊の課題である。

昨年9月に全員協議会を開催し、福島第一原子力発電所事故に伴う原子力災害対応について協議を行ったところであるが、本日は、その後の進捗状況や課題等について協議を行うため招集したものである。

なお、本日の全員協議会は、前半は「福島第一原子力発電所事故対応の現状と課題について」並びに「除染の現状と課題及び中間貯蔵施設について」、後半は「原子力損害賠償の現状と課題について」並びに「避難者支援及び福島復興・再生に向けた取り組みについて」協議を進めるので了承願う。

<議長 前半終了あいさつ>

平出孝朗議長

本日前半部分の協議終了に当たり、一言述べる。

原子力発電所の事故収束を初めとした安全確保の取り組みは、本県の復興・再生の前提となる最も重要な課題である。また、中間貯蔵施設については、地域、そして本県の将来に大きな影響を及ぼすものである。

本日出席の政府機関各位においては、全員協議会で各議員から述べられた意見等を真摯に受けとめ、国の責任において確実に事故収束、廃炉作業を推し進めるとともに、除染を加速化させ、福島復興・再生がしっかりとなし遂げられるよう総力を挙げて最後まで取り組むことを強く求めるものである。

〈議長 閉会あいさつ〉

平出孝朗議長

全員協議会の閉会に当たり、一言述べる。

本日は長時間にわたり、議事運営に協力いただき感謝する。

東京電力（株）福島第一原子力発電所は、依然として事故収束と言える状況にはなく、いまだ約13万人もの県民が避難を余儀なくされており、生活や事業に対してさまざまな不安を抱えている。

本日出席の政府機関各位においては、全員協議会で各議員から述べられた意見等を真摯に受けとめ、迅速かつ十分な賠償及び生活再建、きめ細かな避難者への支援を確実に実施するとともに、福島復興・再生がしっかりとなし遂げられるよう国の総力を挙げて最後まで取り組むことを強く求めるものである。